

萬葉集略解

十下

柳田文庫

文庫11

A 104

14





文庫11  
A 104  
14

僧俱

詠花

竿志鹿之心相念秋芽子之鐘禮零丹落僧惜毛

さきこのころあひかりあきこの志をのあまらまを

和名抄霰雨小雨也礼之文とまをいつと定まれることあり

了初冬のゆめをきこふ後子のゆめ僧の信次下子散

久惜裳とあると同一信のまをまをくまを後あれが信

あは

夕去野邊秋芽子未若露枯金待難

ゆきされのべのあきこのころあはれあまらまを

秋とまをの時とまをのまをのまをのまをのまを

鳥中梅花雪尔志字礼且とよあや宮を枯の信

ぬれつちまをとまをのまをのまをのまを

柳田宗文庫

48 10652

右二首柿本朝臣人麻呂之詞集出

真葛原名引秋風吹每阿太乃大野之芽子花散

まぐさの吹く秋風吹毎阿太乃大野之芽子花散

和名栴大和宇智郡阿陀陀讀可とも一内の大也

鴈鳴之来喧牟日及見乍将有此芽子原雨雨勿零根

かりの鳴る来喧牟日及見乍将有此芽子原雨雨勿零根

以下二首をよみ麻呂ありしといふ所のむらとまきていふるがおもむき

みく麻のまらばちやあたらふおもむきいづり

奥山雨住云男鹿之初夜不去妻問芽子之散久惜裳

おくやまふとむしらよ志のよしみいづつまらばちのちよきも

細長のゆきもふとむのよしみいづつ神楽のちよきも

細長のゆきもふとむのよしみいづつ神楽のちよきも

万解十下 一

行下之  
ハまゝ誤

白露乃置卷惜秋芽子乎折耳折而置哉枯

しろつゆのわらましくもみあきいづつてのこもつておきかたし

第十八橋とよめるもあまの村に可良之妻といふは本よまらふ令枯

ちよきいづつてのこもつておきかたし

秋田新借廬之宿雨穗經及咲有秋芽子雖見不飽香聞

あきたたのかりほのやぶふりまらむけるあきいづつみれあつぬい

吾衣摺有者不在高松之野邊行之者芽子之摺類曾

わのころももれるよあつぬいあつぬいあつぬいあつぬい

あつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬい

あつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬい

あつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬいあつぬい

さかあつてゆくをぬればさきさき衣とせりるるしりとも

此暮秋風吹奴白露雨荒角芽子之明日将咲見

このゆつあきののせしもあまつゆあつてあきののあきののあきの

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

秋風冷成奴馬並而去来於野行奈芽子花見雨

あきののせしあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

朝杲朝露負咲雖云暮陰社咲益家禮

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきのの杲と暮と借しりあきのの杲と暮と借しりあきのの杲と暮と借しり

春去者霞隱不所見有師秋芽子咲折而将挿頭

はるのれがはるのれがはるのれがはるのれがはるのれがはるのれがはるのれが

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきののあきの

沙額田乃野邊乃秋芽子時有者今盛有折而将挿頭

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

事更雨衣者不摺佳人部為咲野之芽子雨丹穗日而将居

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきののあきののあきののあきののあきののあきののあきののあきの

あきのの

之(久)  
誤(見)  
誤(見)

秋風者急之吹来。芽子花落卷惜三。競竟

あきせはやくつきてぬらぶを射ちるまきをみわきしてん  
之ハ久の語ちるべし。競竟と四州おぼろしくあわいりてのるまき  
せり。菊ハ竟ハ立見の程よくまきしりてん。て風の競ひくら  
し。まきとてん。つねのつね。極ちる。枝ハ竟ハ立  
見の語ちる。あきしてみんちる。秋風のきく。あきとてん。あ  
き。よん。つてん。

誤(年)  
誤(年)

我屋前之芽子。若未長。秋風之吹南。時雨将開跡。思乎

わのやどのまきのうねる。あきたせのまきとてん。あきとてん。  
字一本手あきとてん。あきとてん。あきとてん。あきとてん。  
人皆者芽子。字秋云。綴五等者。字花之末。字秋跡者。将言  
いふまきとてん。あきとてん。あきとてん。あきとてん。あきとてん。

万解十下 三

誤(猿)  
誤(猿)

五屋前雨開有秋芽子。常有者。我待人。雨今見。猿物乎

わのやどのまきのうねる。あきたせのまきとてん。あきとてん。  
手寸十名相殖之名。知久出見者。屋前之早芽子。咲雨家類  
香聞

之(下)  
誤(名)

たきそちへうちもあきとてん。あきとてん。あきとてん。  
たきとてん。あきとてん。あきとてん。あきとてん。あきとてん。  
とらあ。たけま。秋の七種とてん。あきとてん。あきとてん。あきとてん。

くもをいり之の下名ハモのほぐえ唐かろちりもろくくうりせつ  
あくすもろくわきをまじりし

吾屋外雨殖生有秋芽子字誰標刺吾爾不知所知

わがやどにうゑおほしるあきをまよふたれのたぬまよはれおまろくぞ

まよふおまろくせんまろりあくとおまろくぬやううて人の所へまよ

ひたよくまろく命のあまろくまよのあまろくまよく次でまよ

手取者袖并丹覆美人部師此白露雨散卷惜

てふとれはくまろくおほまろくまよへまろくつゆふちまろくまよ

まよまろくまよまろく覆おほりまよまろくまよまろくまよ

白露雨荒争金丰咲芽子散惜兼雨莫零根

しろつゆあらまろくまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

あまろくまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

嫩孀等行相乃速稻字菊時成来下芽子花咲

なほらあひのわせまろくまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

子梅といままろく

朝霧之棚引小野之芽子花今哉散濫未馱雨

あさぎりものたあひくまよまよまよまよまよまよまよまよ

あまろくまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

戀之久者形見雨為與登吾背子我殖之秋芽子花咲爾家里

こひくがまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

秋芽子戀不盡跡雖念思惠也安多良思又将相八方

あきまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

かハてきよこのこくやあそきまきしゆりくさくさく志をやは歎息のゆ  
 うくあふくハち惜むさあなやハおるハ又花よあふべきや  
 秋風者日異吹奴高圓之野邊之秋芽子散卷惜裳  
 あきかぜハひよけよあきぬたのまのあべのあきさぎもつらまをくさ  
 丈夫之心者無而秋芽子之戀耳八方奈積而有南  
 ままろせとのこつらハちハあきさぎのこひまのみやちづみてあふん  
 事ハ丈夫のハちハあきさぎのこひまのこひまをてはるまをんやうめつ  
 吾待之秋者来奴雖然芽子之花曾毛未開家類  
 わづまちあきさぎたぬぬのこひまのこひまをてはるまをんやうめつ  
 欲見吾待戀之秋芽子者枝毛思美三荷花開二家里

みまはるわのまをさしあきさぎのこひまのこひまをてはるまをんやうめつ  
 春日野之芽子落者朝東風雨副而此間雨落来根  
 かまのぬのまきハちあきさぎのこひまのこひまをてはるまをんやうめつ  
 秋芽子者於鴈不相常言有者香一云言音乎聞而者花雨散去流  
 あきさぎハちあきさぎのこひまのこひまをてはるまをんやうめつ  
 秋去者妹令視跡殖之芽子露霜相負而散来轟





づらふハ鶴群もまぐれ雁群もくもあつた群  
 ねこつる鳥も一羽もよづらふ雁もねし音もさうさうとさうさうの  
 名のあくぬれるさうさうと、或はを哉と浮れ、え原をなげくぬつ  
 野干王之夜度鷹者鬱幾夜宇歴而鹿已名平告  
 ぬまのまのよづらふかあはむりていよくよまへておれぬのさうさうの  
 及横糸のゆづらふもかこいぬれやゆるぬれよかかすくさうさう  
 ともゆもかりとゆよよとあえとあゆよゆりてゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 さうさうのハ次のさあはねさうさうさうさうさうさうさうさう  
 璞年之経往者阿跡念登夜渡五宇問人哉誰  
 あらうまのさのゆげあむりてよづらふさうさうさうさうさうさう  
 雁もさうさうさうのあまゆづらふくあむりていじは誘のさうさうさうさう  
 あつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

五解十下 八

左男牡鹿之妻整登鳴音之将至極靡芽子原  
 比日之秋朝開雨霧隱妻呼雄鹿之音之亮左  
 このさうのあまゆづらふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 紀元寧ろ亮とさやのさうさうさう  
 左男牡鹿之妻整登鳴音之将至極靡芽子原  
 さうさうのつまごのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

左男牡鹿

於君戀裏觸居者敷野之秋芽子凌左牡鹿鳴裳

きみまゝいふよれせんばまきのぬのあきいぶいふよれせんばまきのぬのあきいぶ

三木の申大和磯城郡の申さるべし後きいふをいふ

鴈来芽子者散跡左小牡鹿之鳴成音毛裏觸丹来

かみきくちをきいふちゆぬとせをいふのなぐちあることいふちゆぬとせをいふちゆぬとせ

なごくと麻の衣妻とくはいふいふちゆぬとせをいふのなぐちあることいふちゆぬとせをいふ

うらやま

秋芽子之戀裳不盡者左小鹿之聲伊續伊繼戀許曾益也

あきいぶのこいもつまねばまきのこいいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶ

つまねばいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶ

とよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよ

ぬのあきいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶ

のまゝいふとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよ

とよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよとよよ

山近家哉可居左小牡鹿乃音乎聞乍宿不勝鴨

やまぢかのいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

あきいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶ

けいばあきいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶ

山邊雨射去薩雄者雖大有山雨文野雨文沙小牡鹿鳴母

やまのへいゆくちやまのへいゆくちやまのへいゆくちやまのへいゆくちやまのへいゆくちやまのへいゆくち

いぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶの

足日本笑山從來世波左小鹿之妻呼音聞益物乎

あし日本のあし日本のあし日本のあし日本のあし日本のあし日本のあし日本のあし日本のあし日本のあし日本の

いぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶのいぶの

有、麻の上之鹿を牡のまき

山邊庭薩雄乃禰良比恐跡小牡鹿鳴成妻之眼予欲焉  
やまへふいせつまのねらひがけをのちうくちあつまのめをほゆ  
しんげど、ちうくねどまのまき、物くとか、むんぐと厚さ、いんまが  
しんじり

秋芽子之散去見鬱三妻總為良思掉牡鹿鳴母

あきちをぎのちちゆいそり、しづり、みづま、しんじり、ちうくねど  
しづり、いんまのむんぐ、ほれさ、うご、まき、いんま、の、まき、お、しんじり  
いんま

山遠京爾之有者狹小牡鹿之妻呼音者之毛有香

やまのちちみづあ、あれ、いんま、の、しんじり、まき、いんま、の、まき、あ、の、  
京の義をひき、しんじり、いんま、の、まき、いんま、の、まき

秋芽子之散過去者左小牡鹿者和備鳴將為名不見者之

あきちをぎのちちみづゆのは、いんま、の、しんじり、まき、いんま、の、まき、いんま、の、まき

あきちをぎのちちみづゆのは、いんま、の、しんじり、まき、いんま、の、まき、いんま、の、まき

秋芽子之咲有野邊者左小牡鹿曾露宇別乍孀問四家類

あきちをぎのちちみづゆのは、いんま、の、しんじり、まき、いんま、の、まき、いんま、の、まき

奈何牡鹿之和備鳴為成蓋毛秋野之芽子也繁將落

なぞちをぎのちちみづゆのは、いんま、の、しんじり、まき、いんま、の、まき、いんま、の、まき

秋芽子之開有野邊左牡鹿者落卷惜見鳴去物乎

ゆらちうやあんとしんじり



影草乃生有屋外之暮陰雨鳴蟋蟀者雖聞不足可聞  
かげくさのにおひるやどのゆはげなきこゝろにさむくあのみも  
世の陰草の影も、物の陰も、こゝろにさむくあのみも、  
庭草雨村雨落而蟋蟀之鳴音聞者秋付雨家里  
あそくさるむむらさあふりて、ほろぎのなきこゝろにさむくあのみも  
庭草 八巻子生るる草、和名抄子地膚 糸波久休一  
名赤木久休 一とて八巻子生るる草  
三吉野乃石本不避鳴川津諾文鳴来河乎浄  
みよのいのをいもくろむぢあかづるべなききたりかをともやけみ  
川の清きよらつのはらむぢあかづるべなききたりか

詠蝦

三吉野乃石本不避鳴川津諾文鳴来河乎浄  
みよのいのをいもくろむぢあかづるべなききたりかをともやけみ  
川の清きよらつのはらむぢあかづるべなききたりか

神名火之山下動去水丹川津鳴成秋登將云鳥屋  
かみまじのやまたとまゆくみづまかそつたくなわあきくうんや

草枕客爾物念吾聞者夕片設而鳴川津可聞  
くまきつらたじよのそひわぎけはゆつらまげしあかかきつら

片まけは河向のそこ

瀬字速見落當知足白浪爾川津鳴奈里朝夕毎

まの倍字のくたきちか有こ

上瀬雨河津妻呼暮去者衣手寒三妻將枕跡香

かみつせまかづらあゆあせればあわがせもひつまのうもはこ  
陸のうらと人のまじりのくまきつらまげしあかかきつら

詠鳥

妹手字取石池之浪間後鳥音異鳴秋過良之

いもてをとりへのいけのなみのまゆあなねけちちくあきをぎぬら

いづれを池河取石池ハ聖武紀ハ行還至和泉国取石頼宮ハやう  
これちるべ一姓氏派ハ取石造和泉国諸蕃の下ハやうとしかれふ

とろまの池とつらとまの浪の音後の後ハろくくわべ一水もハ物名  
よらこもハねきけぞん

百舌の鳥  
百ニ  
一

秋野之草花我末鳴百舌鳥音聞濫香片聞吾妹

あきののをがまひぢれふちくわすのこまきつらんのからまきくわび  
わがハ改むと石とまハ語んぞハ秋まももの鳴わるとはつらとん  
のちりひやると宮もハ岸岡ハ岸待の語れといつらハのまもも岸岡  
といつらとんくまきつらまのつらとまのつらとまのつらとまのつらとま

草花と云ふれとあるは、草一は草花と云ふをさすよあるべし

詠露

冷芽子丹置白露朝朝珠斗曾見流置白露

あきはぎふれけるちつゆあきはぎをさなたまごみゆるおける一ちつゆ

冷ハあはぎと云ふ、草十一あさかせと冷風と云ふ

暮立之雨落毎一云打春日野之尾花之上乃白露所念

ゆづものおりするもよかたあのををなごうへのちつゆおもむゆ

芽子云はまき、一本のゆくもちれぐありくはの夕芽花之末乃と云

七一そ並載て、左記は右河二首小鯛王宴居之日取琴登時必先吟

詠此歌也三くとも、夕三ハたハ杖の物とせりと云ゆ

秋芽子之枝毛十尾丹露霜置寒毛時者成雨家類可聞

あきはぎのえびしきをまつゆどもあきはぎむくときちりまらるる

露の秋の草花と云ふは、露といふは、あはぎと云ふをさすよあるべし

白露與秋芽子者戀亂別事難吾情可聞

ちつゆともあはぎのこころをいひあはれけりかきわのこころおも

あはぎと云ふは、まきと云ふは、一本のゆくもちれぐありくはの夕芽花之末乃と云

吾屋戸之麻花押廉置露雨手觸吾妹兒落卷毛将見

わら戸のをばるおちあへおつゆあてられけりしちりあはぎもみむ

あはぎと云ふは、まきと云ふは、一本のゆくもちれぐありくはの夕芽花之末乃と云

白露乍取者可消去来子等露雨争而芽子之遊将為

ちつゆと云ふは、まきと云ふは、一本のゆくもちれぐありくはの夕芽花之末乃と云

あはぎと云ふは、まきと云ふは、一本のゆくもちれぐありくはの夕芽花之末乃と云

秋田前借廬宇作吾居者衣手寒露置雨家留

あきくうらまのちつゆをまつゆをわのまらるるあはぎと云ふは、まきと云ふは、一本のゆくもちれぐありくはの夕芽花之末乃と云

和名抄云毛待云農人作廬以便田事和名伊保と云置の下曾の事を脱す  
まうと云くして例もさうなり秋古と集ふしはあつて載つてつゆと云ふも  
とあり

日來之秋風寒芽子之花令散白露置雨來下

このごろのあきのせきしをぎのちちらすまうつゆたきよけし  
秋田蒨若手揺奈利白露者置穂田無跡告爾來良思

一云告爾來良思毋

若之苦の俗字考つ和名坎尔雅注云苦和名編菅茅以覆屋也と云苦子に杭  
手深きものよも同くくは流をよつかりをあらわしつゆと苦と  
苦と云は穂田に穂を出る思ふ穂田と云やれをくれば夏のまき  
と使ふはさうとまきと穂とくるといふべし秋くはか風と

不知きまふりすと菊いれき室きニの向きと云は衣半ワデヒトヌナリ淫念利と云へ  
といふは若手

詠山

春者毛要夏者緑丹紅之綠色雨所見秋山可聞

はるはかえまつみどるのれもあめのみきまみゆるあきのやまのし  
若手とよありあは枝の影に丹あま丹にあきとあは穂く流の  
まこと松遠をまきりる秋はこころかまふとよめるはきよけれ  
とあり

詠黄葉

妻隱矢野神山露霜雨爾寶比始散卷惜

つよきものやのかみやつゆわかほひそめしりちらまふくま  
つよきもの秋月矢野神山和名抄出雲神門八野伊与喜多郡矢野

備後甲奴那矢建 搦麿赤穂於八野 予、そいつとをよめりう。

朝露雨染始秋山 雨鐘禮莫零在渡金

あさつゆよそめはめりあきやまふとくれなちうそあわつるかね

あつるかねとあきやまふとくれなちうそあわつるかね

右二首柿本朝臣人麻呂之詞集出

九月乃鐘禮乃雨丹沾通春日之山者色付丹来

この月のまづくれのあめふぬれかきかきあやまいらつまふけり

あやまいらつまふけりかきかきあやまいらつまふけり

鴈鳴之寒朝開之露有之春日山乎令黄物者

かりのねのさむきあやけのつゆさるうかきあやまをさかひきそのを

かりのねのさむきあやけのつゆさるうかきあやまをさかひきそのを

そのうけへしと高いつれれれとれえ鷹をの刑よりえ

比日之曉露丹吾屋前之芽子乃下葉者色付雨家里

このころのあつとまきつゆふわやどのなきのまきとまきいろつきふけり

鴈鳴者今者来鳴沼吾待之黄葉早継待者辛苦母

かりのねいままきなるあわのまちりもちをやつけまてびとるも

かりのねいままきなるあわのまちりもちをやつけまてびとるも

秋山乎謹人懸勿忘西其黄葉乃所思君

あきやまをゆめむかくなむれあそののみちらばのおやゆらうふ

あきやまをゆめむかくなむれあそののみちらばのおやゆらうふ

あきやまをゆめむかくなむれあそののみちらばのおやゆらうふ

あきやまをゆめむかくなむれあそののみちらばのおやゆらうふ

大坂乎吾越来者二上雨黄葉流志具禮零介

おほさかのこをわのこえくれあつるあみよみむらあつるまくれあつる



ゆきふれはゆき衣と解れなき

秋風之日異吹者水莖能岡乃木葉毛色付爾家里

あきこのせのひまけふふけいふつこのものをこののはもいふつきのくち

室を水くきいとの杖ぬきき七の菰水門とよき一菰ち遠望むて

ゆを元有鳩解水川とよぬれは流すし水ついでいそぎおはたの地名

とらぬちの申るれはたわふるちぬきぬきのもの、又いづれもあはれはつと

地名よあはれはつと

鴈鳴乃來鳴之共韓衣裁田之山者黃始有

かゝるのきこもよーなへかゝるもたつたつたのやまふらひそめち

鴈之鳴聲聞苗荷明日後者借香能山者黃始南

かゝるのきこもよーなへかゝるもたつたつたのやまふらひそめち

四具禮能雨無間之零者真木葉毛笋不勝而色付爾家里

まぐれのあめまきくーたれはまきのそもあはれはかたていろづきをた

灼然四具禮乃雨者零勿國大城山者色付爾家里

いぢるるくまぐれのあめいぢるるまきのおおきやまいろづきよきめ

文謂大城者在筑前国御笠郡之大野山頂号曰大城者也

いぢるるくまぐれのあめいぢるるまきのおおきやまいろづきよきめ

風吹者黃葉散乍小雲吾松原清在莫國

かぜふけいぢるるまきおほくちあめまきいろづきよきめ

まぐれはまき十七つせことあはれはまきいろづきよきめ

まきいろづきよきめ、まきいろづきよきめ、まきいろづきよきめ

物念隱座而今日見者春日山者色就爾家里  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ

九月白露負而足日木乃山之将黄變見幕下吉

妹許跡馬鞍置而射駒山擊越来者紅葉散筒  
いづかたうまひくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
いづかたうまひくわんれがまののやまいあらびまふけわ

黄葉為時雨成良之月人楓枝乃色付見者

かみぢりんとさるたふせうつさきいのかつこのえびのいろづくこれば

和名抄を、並名苑云、月中有河河上有桂樹高五百丈とあり、月のうらみ  
とよみり月と月人ともともあられ、月人のいづかたうまひくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
林は月のうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
里異霜者置良之高松野山司之色付見者  
せうじくふとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ

秋風之日異吹者露重芽子之下葉者色付来  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ

秋芽子乃下葉赤荒玉乃月之歴去者風疾鴨  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ

あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ  
あきふしのうらみとてあけくわんれがまののやまいあらびまふけわ

真十鏡見名淵山者今日鴨白露置而黄葉將散

まろかこみちがちやまけつしかもきつゆねさうりみちるるる

まろかこみちがちやまけつしかもきつゆねさうりみちるるる

吾屋戸之浅紫色付吉魚張之夏身之上雨四具禮零疑

わがやのあそむらいろづくよまばりのまつこのへふまぶれくのも

よまばりのまつこのへふまぶれくのも

鴈鳴之寒鳴後水莖之岡乃葛葉者色付雨来

かりのねのせむむくまきゆみづきのものくもづいろづまよわり

ゆみづきのものくもづいろづまよわり

秋芽子之下葉乃黄葉於花継時過去者後將戀鴨

あきこまのさしたのさみぢらまよびいとまよゆのちのひんのも

あきこまのさしたのさみぢらまよびいとまよゆのちのひんのも

紐ヲ  
二誤

明日香河黄葉流葛木山之木葉者今之散疑

あすのうばをみぢらまよづるがづきのやまのこのいひあちるる

あすのうばをみぢらまよづるがづきのやまのこのいひあちるる

妹之紐解登結而立田山今許曾黄葉始而有家禮

いものいしむくもむらびてたつやまよまこりそえぢらばめくわかれ

いものいしむくもむらびてたつやまよまこりそえぢらばめくわかれ

そハ紐を解ふやうて結ひてきてんるるるるるるるるるるる

そハ紐を解ふやうて結ひてきてんるるるるるるるるるるる

而ハ弟の信ちるるる一二の白ハそいそんるの二席の

後ノ  
日ヲ  
股上

鴈鳴之喧之後春日有三笠山者色付丹家里

かりのねのなきまゆいよりかよのわのそよのまよいりてかこり

かりのねのなきまゆいよりかよのわのそよのまよいりてかこり

比者之五更露雨五口屋戸乃秋之芽子原色付雨家里  
このごろのあつときつゆふわがやどのあつのをきくうらづまよけつて  
此よは口の芽子の下葉をとりけつるのうらまへ今も同葉をこの秋  
のとき原はほく

夕去者鴈之越往龍田山四具禮爾競色付雨家里  
ゆきせんがわのこさゆへたつやまたれまよけつていづまよけつて

下も林されば雁といふゆへたつていづまよけ

左夜深而四具禮勿零秋芽子之本葉之黃葉落卷惜裳  
さよふけてたれまよけつてあまのこのかのこまぢくまよけつて

本葉ハ下をまよけ

古郷之始黃葉字手折以而今日曾吾来不見人之為  
ふるまよけつてさよふぢくまよけつてけつてわがふるまよけつて

万解十下 十一

今之黃葉早者落之誤

君之家乃黃葉早落之者四具禮乃雨爾所沾良之母  
きみのおのこまぢくまよけつてさよふぢくまよけつて  
この本葉の上よ之のさつる者の下よ落の字あり此きつてあつて  
一年二遍不行秋山乎情爾不飽過之鶴鴨

此の世はゆへたつていづまよけつていづまよけつて  
ゆへたつていづまよけつていづまよけつていづまよけつて  
空の世はゆへたつていづまよけつていづまよけつて  
いづまよけつていづまよけつていづまよけつて

詠水田 和名抄云漢語抄云水田古本田填也とあり  
足曳之山田佃子不秀友繩谷延興守登知金





あまやまのこめはもいもいそがねはけさくせいでいそがねいそがね  
そくそねいほのそくそねいそがねいそがねいそがねいそがね  
久々のほろろい

詠芳

高松之此峯迫雨笠立而及盛有秋香乃吉者

たのまのこのみほれせよかたなりてみちせかたなりあきののこのま  
峯と迫りて香のたよりとくけいそがねいそがねいそがね  
かきこもいそがねいそがねいそがねいそがねいそがね  
題の芳の草のほろろいこれ松草とありといふ按和名抄菌茸  
注云菌有木菌土菌 石菌和名皆多介 云く状如人著笠者也と云ぬふも松草ハ秋香と云  
あき香いそがねいそがねいそがねいそがねいそがね

詠雨

一日千重敷布我戀妹當為暮零禮見

いとひはちぢくまわのこもいそがねいそがねいそがねいそがねいそがね

右一首柿本朝臣入麻呂之歌集出

秋田新客乃廬入雨四具禮零我袖沾干人無二

あきたりのこいのかりよまぢれあわわのそでぬれぬりそいそがねいそがね  
いそがねいそがねいそがねいそがねいそがねいそがねいそがねいそがね

んをゆくやち

玉手次不懸時無吾戀此貝禮志零者沾乍毛将行

たまぎよまかぬとまぢまわのこいそがねいそがねいそがねいそがねいそがね

あきそまかぬとまぢまわのこいそがねいそがねいそがねいそがねいそがね  
のこいそがねいそがねいそがねいそがねいそがねいそがねいそがねいそがね

零者 誤

黄葉乍令落四具禮能零苗雨夜副衣寒一之宿者

そみぢばとちりくちくれのあさちへよよきへそまきいひつりぬれば

それよりちりあはさしむる長しきとつよきれい口の白く人の宿

後よりちりあはさしむる長しきとつよきれい口の白く人の宿

詠霜

天飛也鴈之翅乃覆羽之何處漏香霜之零異年

あまもよやかかのつなきのおをひたのいつくちりての志ものちりてん

唐にあまもよ羽ちりてつなきちりあはさればかくとされくちり

きぬ旅人の下ちりせんゆきまあつるいこころちりてめ天の轉むる

ちりちりちり翅之唐ちり翅とそりちりちり翅のちり

秋相聞

金山古日下鳴鳥音聞何嘆

春冬野見

あきやまの古日下鳴鳥音聞何嘆

あきよ山古日下鳴鳥音聞何嘆



川八州ノ  
誤得ヲ  
將ニ誤

秋田川借廬作五百入為而有藍君叫將見依毛欲得  
あきつゝこのわがやとてわいほわしてあるらんきふとらんしりもか  
田の下川八州の誤り得とて將は誤れり、元磨もよくらうて政、源田使のまき  
とのよめりちるべし

鶴鳴之所聞田井雨五百入為而吾客有跡於妹告社

たづねのきこゆるたおふいほわして見れたびちわといわふつげこ  
これハむらひめハあうて、家持もよくらうて、まうぬねをきしりよめ  
るわらるべし

付ハ為  
ノ誤

春霞多奈引田居雨廬付而秋田菊左右令思良久

はるかにえきたまびくたあよ、あつてあきたうまで、あひわら  
けり付ハ為の誤り、引田はあひわらひ、あきたうまで、あひわらひ  
あきまといひ、引田はあひわらひ、あきたうまで、あひわらひ

橘守守部乃五十戸之門田早稻蒔時過去不來跡為等霜

たちををわらへのいのかたせかるまきとぬことせらも

たちををと橘守、まきとぬこ、守部王とりし、それハ、

秋ハ大和の地名、まきとぬこ、守部王とりし、それハ、

と、守部の名の門田とよめり、五十戸ハ、戸令ハ五十戸を里とせり

と、それハ、まきとぬこ、守部王とりし、それハ、

しく、橘守ぬと根さ

寄露

秋芽子之開散野邊之暮露雨沾乍來益夜者深去鞞

あきここのまきとぬこのいのゆつゆぬれたまよせよよけぬ  
古今集、秋芽子のちるここの、露をぬれてとぬらん、

と、と、まきとぬこ、

と、と、まきとぬこ、

根ヲ膝ヒ

色付相秋之露霜莫零根妹之手本乎不纏今夜者  
いろづふあきのつゆもさちそねむらわたりをよめるぬこよひハ  
零の下根のさちをもち一え磨かふよわく物づりもづふハさづくと也  
そへ輝くねむらわたりを神さくねむらわたりもあまもさつとつて  
秋向ハあまもといふんぬのこ

下雨  
ハ筒保

秋芽子之上雨置有白露之消鴨死猿戀雨不有者  
あきこゝのく小おさたるさつゆのたのもさあまといひつてあまは  
まハ合目もさちをもち消可思念萬思慮管不有者とちウハハ  
死猿ハ死をよりつてあまもさつとつてあまもさつとつてあまも  
の下雨ハ筒の保もさつとつてあまも

吾屋前秋芽子上置露市白霜吾戀目八面  
わらふのあまもさちのくおさつゆのたのもさあまといひつてあまも

万解十下 サハ

とハのりろろといふん席のりもハゆ輝きも散れてさつとつてあまも

秋穂宇之努爾押靡置露消鴨死益戀不有者  
あきのほもとさぬらねむらわたりつゆのけりもさあまといひつてあまも  
秋のハ橋の極もさちをもちさつとつてあまもさつとつてあまも  
信さくとのぬくをさちをもちさつとつてあまも

露霜爾衣袖所沾而今谷毛妹許行名夜者雖深  
つゆもさちをもちさつとつてあまもさつとつてあまも  
ゆのれハゆりん

秋芽子之枝毛十尾雨置露之消毒死猿戀不有者  
あきをさちのえびもさちをもちさつとつてあまも  
さつとつてあまもさつとつてあまも  
さつとつてあまもさつとつてあまも

秋芽子之上爾白露每置見管曾思努布君之光儀乎  
あきさをこのうへよきうつゆおんごもよみつぐまぬぶきみのがらごと  
まがれらるるをきくたのめるとしてまがのめるといひてまがはるるを

寄風

吾妹子者衣丹有南秋風之寒比来下著益乎

わがみこいきあはあうたうんあきののせのあひのこらまてつていませ

あうまのこらう

泊瀬風如是吹三更者及何時衣片敷吾一将宿

はせのせかくうよまていつまでうころもかこきわのいこりせん

まてせ風いぬき風いりうめいよりあうん三まてまてよはむ

るまうれあは三更者の若い年のほまうんえ唐かのかまうんよと

とあり

告行文

寄雨

秋芽子乎令落長雨之零比者一起居而戀夜曾大寸

あはなまきこをちらうれあああのみさうんいりおさるていりよまてあひき

大い傍うらまのそと

九月四具禮乃雨之山霧煙寸吾告曾誰乎見者將息

かづのぎのまごれあああのみまきこあひりせまわのむねたれをくばやまん

一云十月四具禮乃雨降

あきあまごれははきき霧のほまていりていりせまていりん床とせま

れんあまていりハあまをあひいりていりていりていりていりていりていりていり

寄蟋

目福々蟋蟀の音も下りて蟋蟀一やうとまていりていりていりていりていり

蟋蟀之待歡秋夜乎寐驗無枕與吾者

こころまじのまじらふことかたむねのよきことなりとて  
 陸路の地の所をゆく道とてまじのまじらふことなりとて  
 ぬれぬるうしつちまじらふことなりとてまじらふことなりとて

寄蝦

朝霞鹿火屋之下雨鳴蝦聲谷間者吾將戀八方

あまがらふかびやうたふちのうしつちまじらふことなりとて  
 けうもく物相かびやハ、栲麻と逐へる依座、然が入居て、柴のほこ  
 と候、草のうしつちまじらふことなりとて又十一、あまの山間を  
 故火のよめるハ、神村の比田をまじらふ故やとて、あまの火とて  
 今、冠輝考、まじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて  
 去るよちまじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて

寄鴈

出去者天飛鴈之可泣美且今日且今日云二年曾經去家

類

いづいなるあまのまじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて  
 初句ハ、まじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて  
 まじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて  
 天とて、あまの火とて、あまの火とて

寄鹿

左小牡鹿之朝伏小野之草若美隱不得而於人所知名  
 まじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて  
 上の隠れぬことなりとて、あまの火とて、あまの火とて  
 左小牡鹿之小野草伏灼然吾不問雨人乃知良久  
 まじらふことなりとて、あまの火とて、あまの火とて

藤のゆゑの思ふもなれどあふれやもきぢめく我はあふふまきと  
せしむもなれど人の思ふもなれどあふれやもきぢめく我はあふふまきと

寄鶴

鶴は秋のやわらぐまれば秋の思ふもなれど

今夜乃曉降鳴鶴之念不過戀許増益也

このよりのあふれやもきぢめく我はあふふまきと  
こころの思ふもなれど人の思ふもなれどあふれやもきぢめく我はあふふまきと  
やうとて、思ふもなれど人の思ふもなれどあふれやもきぢめく我はあふふまきと

寄草

道邊之草花我下之思草今更雨何物可將念  
みちのべの草花我下之思草今更雨何物可將念

道の邊の草花我下之思草今更雨何物可將念  
みちのべの草花我下之思草今更雨何物可將念

草深三蝶多鳴屋前芽子見公者何時來益牟  
草深三蝶多鳴屋前芽子見公者何時來益牟

秋就者水草花乃阿要奴蟹思跡不知直雨不相在者  
あきつげば水草花乃阿要奴蟹思跡不知直雨不相在者

秋就者水草花乃阿要奴蟹思跡不知直雨不相在者  
あきつげば水草花乃阿要奴蟹思跡不知直雨不相在者

何為等加君乎將獸秋芽子乃其始花之歡寸物乎  
何為等加君乎將獸秋芽子乃其始花之歡寸物乎

たのまのいひのてのりていひたまきをきひのゆふのめくはしりくまらひ

一まきとらひ

展轉戀者死友灼然色庭不出朝容貌之花

こまろひこひまぬとこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

こまろひこひまぬとこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

言出而云忌染朝顔乃穂庭開不出戀為鴨

こまろひこひまぬとこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

鴈鳴之始音聞而開出有屋前之秋芽子見来吾世古

かむねのまきとらひてまきとらひてまきとらひてまきとらひてまきとらひ

左小牝鹿之入野乃為酢寸初尾花何時如妹之将手枕

まをのののまぬのまきとらひてまきとらひてまきとらひてまきとらひ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ

戀日之氣長有者三苑圃能幸藍花之色出爾来

こまろひのけまらひあけかほのまきとらひてまきとらひてまきとらひ

いんたふよゆくまきくふゆいこいぢろくじろふいにてあけかほのをれ



いさくふいまいみかかあきいさのさきいふあらんいさのさきい

卒尔開いさみふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

小母いさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

用さる鏡とあきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

又あきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

秋芽子之花野乃為酢寸穗庭不出吾戀度隱孀波母

あきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

花野に地よりあきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

と歎く婦

吾屋戸雨開秋芽子散過而實成及丹於君不相鴨

わがやどいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

あきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

吾屋前之芽子開一家里不落聞爾早來可見平城里人

わがやどのまきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

石走間生有貌花乃花面有来在筒見者

いはのまきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

いさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

あきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

妹をさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

藤原古郷之秋芽子者開而落去寸君待不得而

あきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

元明天皇和銅三年高市郡藤原より奈良一郡を遷させたまひ

及於藤原より藤原の居る人のたふらむる人へよみくおくれらるる人へ

秋芽子乎落過沼蛇手拵持雖見不怜君西不有者

あきいさのさきいふよあわぞりあきいさのさきいふあらんいさのさきい

あきいそやちりまぎあべふたよりそてみればさかきふりあふね  
初句よりこの句へ行くさうに不樂の意、蛇は和名倍美と云れがさういふ  
朝開夕者消流鴨頭草可消愁毛吾者為鴨

あたまをゆづへにけゆるつこころのげぬばいこいよんれはさるかも

鴨以ををつゆとよまんとて憂いけゆるさぬはさるかも

さういふまゝとよまんとて憂いけゆるさぬはさるかも

蛭野之尾花前副秋芽子之花乎葺核君之借廬

あきつゆのををまがかりへあきいそよのをまよふまねまひのかりほふ

あきつゆのををまがかりへあきいそよのをまよふまねまひのかりほふ

あきつゆのををまがかりへあきいそよのをまよふまねまひのかりほふ

あきつゆのををまがかりへあきいそよのをまよふまねまひのかりほふ

咲友不知師有者默然将有此秋芽子乎令視管本無

あきいそやちりまぎあべふたよりそてみればさかきふりあふね  
あきいそやちりまぎあべふたよりそてみればさかきふりあふね  
あきいそやちりまぎあべふたよりそてみればさかきふりあふね  
あきいそやちりまぎあべふたよりそてみればさかきふりあふね

寄山

秋去者鴈飛越龍田山立而毛居而毛君乎思曾念

あきされがかりとびゆるたつやまたちてゝあてしきふとが華

よこまてしとていそんたのこ

寄黄葉

我屋戸之田葛葉日殊色付奴不座君者何情曾毛

わづらどののくまはひよくまいろつまぬきまぬきふいよふいよも

座の上一本葉のうらみ、葛の葉の色付まぬきまぬきふいよふいよも

足引乃山佐奈葛黄變及妹爾不相哉吾戀將居

座の上  
ヲ賦

あびらぎのやうなれづゝをさづかぬいふあたをぞやわがこころ

ささうづゝハ和名抄五味 作祿加とよめて、おち葉ちるゝのちむじ、  
あくたあゝきなるるちちこへー

黄葉之過不勝児乎人妻跡見乍哉将有戀敷物乎

わみぢのよごがてぬこをひつゝもみつやあゝんこひたしものよ  
はとらぶの地ねむおちとこゝのこゝろぬいさゝ難きん

寄月

於君戀之奈要浦觸吾居者秋風吹而月斜烏

きさみよこいささるえうゝおれいのもれがあさのせよまてしあかづきん  
き二夜子の物いささるてしよまてり 鳥ハ鳥の保

秋夜之月疑意君者雲隱須臾不見者幾許戀敷

あきよのつきいもきさるゝがられ志ばもみねいあたこい

かゝと疑意とちるハまあとと随来ともるうらり、君ハ杜のちの月とて  
おとりのこ

九月之在明能月夜有乍毛君之来座者吾将戀八方

なつきのあめあけのつくよあつともきさみあまやうられいめや  
まハあつつりいんつらん料の

寄夜

思咲八師不戀登為跡金風之寒吹夜者君乎之曾念

よるやいひとそれあさかせのさむいさくよハきさみさぞおか  
思ハ吉のほちん

惑者之痛情無跡将念秋之長夜乎寐師耳

わびよのあまこころちとねしんあまのちのよといわよあま  
孝九惑人ハあまこころちとねしんあまのちのよといわよあま

耳ハ在  
誤カ

いとよみく里人のまこといふより人の事十八は惑をせむとた度波世流  
とあれは元唐草の或者も宿に寝て寐所耳をねきえしてのそつ割れ  
どつよりむくもちり耳に在のそのもよ少寝ゆるわらんそつ寝の上よ  
不の字もよこと集申不の字もよあつる例も

秋夜半長跡雖言積西戀盡者短有家里

あきのよをたながといふことつらふこといをつせばみどのかちげ

逸遊よみこへるんをうた

寄衣

秋都葉雨雨寶敞流衣吾者不服於君奉者夜毛著金

あきつをふをへるんをたれききまはましむるもきもかね

考三秋津羽之神す婦よりよみく精於の胸も精於の胸のしんきこと  
かりつらう秋はよみく秋つ羽のぬのさかんかひのしんきこと

一々君をせんせえてあつる身ははらん料やこ

問答

旅尚襟解物事繁三九宿吾為長此夜

たびしんきをひきゆるもの事なほまらむるの事なほまらむるの事なほ

いしんきをひきゆるもの事なほまらむるの事なほまらむるの事なほ

いしんきをひきゆるもの事なほまらむるの事なほまらむるの事なほ

四具禮零曉月夜紐不解意君跡居益物

よつれしんきあつるついでにひきゆるもの事なほまらむるの事なほ

右の事くあつる曉月夜はむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

よつれしんきあつるついでにひきゆるもの事なほまらむるの事なほ

於黃葉置白露之色葉二毛不出跡念者事之繁家口

かみぢばよおくまらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら



ちくはつがていしや甲一復ん夜ころ

皮為酢寸穂庭開不出憲年吾為玉蜻直一目耳視之人故

爾  
はひそたははささきてぬいしとわづもかふるしのたひいぬの  
みーいとゆゑふ

一二の句は日びこきとまよふていかにうらひの杖ぬ

冬雑歌

我袖爾電手走卷隠不消有妹為見

わのうてふあくれたがふまきかへけごもあへんいよろくもたぬ  
またかへしへ神のまきあまきりつべー電とはささきてあへんこき

足曳之山鴨高卷向之木志乃子松二三雪落来

あひひきのやまのむねのまきまきむのきこのまきよふゆきゆちちち

卷向山のまきまきの崖の小ねの雪のあひはるるしゆん

卷向之檜原毛未雲居者子松之末由沫雪流

まきまきのいづしゆいあさごねねまのうれゆあゆきさる  
あひひきのやまのむねのまきまきむのきこのまきよふゆきゆちちち

足引山道不知白杜枝枝母等乎乎爾雪落者

あひひきのやまのむねのまきまきむのきこのまきよふゆきゆちちち  
あひひきのやまのむねのまきまきむのきこのまきよふゆきゆちちち

かくらるるのれは杜枝の杜枝の字の誤れりうらむれいれどおつら

和名抄枝柯之所入登舟も此二字と傳へるる誤れりなむべし量許玩

此の志羅伽之飯延鳩子愛珥左勢許能固と有

或云枝毛多和多和

右柿本朝臣人麻呂之歌集出也但一首或本云三方沙

彌作

之唐か一着の上件の名々

詠雪

奈良山乃峯尚霧合宇倍志社前垣之下乃雪者不消家禮

きしよハ雪の天霧合降之をどられハ石階をなれを思ふらん

殊落者袖副沾而可通將落雪之空雨消二管

こころあつてさぬれてとわらへくあちんゆきのそらふけはつ

夜半寒三朝戸半開出見者庭毛薄大良雨三雪落有

よよとあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ

一云庭裳保行呂雨雪曾零而有

まじりしほろもゆるぬのこ太と大はほえ唐かよるく改

木ッ夫ニ

暮去者衣袖寒之高松之山木每雪曾零有

ゆふたれころあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ

此中よよとあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ  
ハ久のほろもゆるぬのこ太と大はほえ唐かよるく改

吾袖爾零鶴雪毛流去而妹之手本伊行觸糠

わがそでふあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ

種々ぬきの面にさうとあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ  
後糠不致の相子借さう

沫雪者今日者莫零白妙之袖纏将干人毛不有惡

あつてゆきさつちあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ

ぬよ違ひてあれハ我袖を後履あを將干すのちきくも能く  
あつてさうとあつてみあさといひらきいてみればあつてさうふゆきさつちあ

隱ヲ隱  
ニ誤

あつてものかるるべし

甚多毛不零雪故言多毛天三空者陰相管

まらふしやうめゆきゆきこころいふあつてもいふいふあつても

まゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆき

かたつてけつてけつてけつてけつてけつてけつてけつてけつて

まゝ改つ

吾背子乎且今且今出見者沫雪零有庭毛保行呂爾

わがせこそいまのいまのいざみればあつてもゆきあつてもあつても

四河けつてけつてあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

足引山雨白者我屋戸雨昨日暮零之雪疑意

万解十下 四十一

あひまきのやまよきとるまはわがせとひまのゆきまゆきまゆき

詠花

誰苑之梅花毛久堅之清月夜雨幾許散来

たごそのうめのをちをいひかしのきよつきよふくたちちちちち

花のきの下曾を服しあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

梅花先開枝手折而者裏常名付而與副手六香聞

うめがなままつきくそとれとつてなづけてあつてもあつてもあつても

妹があつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

は雪こつてつれてあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

誰苑之梅爾可有家武幾許毛開有可毛見我欲左右手二

たごそのうめあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても

たごそのうめあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつても



ちりひて入るる

冬相聞

零雪虚空可消 雖戀相依無月經在

あはゆきのそらふくあはぐくすれどもあやうきをかまへづきをなほふけ

あはゆきのそらふくあはぐくすれどもあやうきをかまへづきをなほふけ

沫雪千重零敷 愈為来食永我見徳

あはゆきさくらへふあちきけこしりのけさびさくられはみづきあはだも

と中重と里は他くちさくまやうえ磨をよまて取ましもの一くハゆき

けあさハよままくかあまをたえつて塚まのぞんこ

右掃本朝臣人麻呂之歌集出

寄露

咲出照梅之下枝置露之可消 於妹 愈頃者

万解十下 四十三

あはゆきさくらへふあちきけこしりのけさびさくられはみづきあはだも

あはゆきさくらへふあちきけこしりのけさびさくられはみづきあはだも

あはゆきさくらへふあちきけこしりのけさびさくられはみづきあはだも

寄霜

甚毛夜深勿行道 遠之湯小竹之於 霜降夜鳥

たまはげもよよけてまゆたみちのべのゆきさくらへふあちきけこしりの

ゆきさくらへふあちきけこしりのけさびさくられはみづきあはだも

さうい

寄雪

小竹葉雨薄太禮 零覆消名羽鴨 将忘云者 益所念

さのちふはげれあつおひげまはうちをれんとくばまておしあや

一二の句ハ序まき雪のはるも月のあつまといふまはうちをれんとくばまておしあや



梅花其跡毛不所見零雪之市白兼名間使遣者  
うめのまをそれをもみくらひたるゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

一云零雪雨間使遣者其将知名シトミラニナ下前四会

とハのちりろくしつらん春のし回使に改む一平の方それとちんちハま  
まはつけるがそれとちんちりしうけんままつゆいせらば

天霧相零来雪之消友於君合常流經度

あまふごういしやくるゆきののけるめとさきみよありんとたのづらんわし

天霧相零来雪之消友於君合常流經度

あまふごういしやくるゆきののけるめとさきみよありんとたのづらんわし

あまふごういしやくるゆきののけるめとさきみよありんとたのづらんわし

窺良布跡見山雪之灼然戀者妹名人將知可聞会

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

うかねらよとみやまゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

和射美能嶺往過而零雪乃獸毛無跡白其兒雨

わさみのみねゆきしとせらふゆるゆきののりちりしうけんままつゆいせらば

わさみのみねゆきしとせらふゆるゆきののりちりしうけんままつゆいせらば





